

編集後記

■編集委員 (50 音順)

伊熊健一郎
北野正剛

岩崎昭憲
清水一雄

小澤壮治
徳村弘実

北島政樹
東原英二

新年を迎えて医療界もさらに変化を迫られそうである。2007 年度をめどに厚生労働省は病院などの医療機関に対して、患者が病院を選ぶうえで参考になる詳細な情報を開示するよう義務づける方針を固めたという。そのなかには医師の専門医資格の有無が含まれている。2004 年度から日本内視鏡外科学会が進めてきた技術認定制度は、内視鏡外科手術に携わる医師の技量を共通の基準に従って評価し、所定の基準を満たした者を認定する制度で、厚生省の方針に適合することになるであろう。

患者側からみると、所属医師の専門医や認定医などの資格は病院選択の材料の一つとして役に立つと思われるが、医師側からみると、資格がない場合には診療や教育に支障をきたすかもしれないという危惧がある。内科系の専門医資格とは異なり、外科系の技術認定資格を得るためには、症例数の多い病院に勤務せざるを得ず、症例数の不十分な病院の外科的活動が低下しないか、必要な外科系医師の確保が可能かなどの心配が生じる。

「逆境はチャンス」という考え方もあるようで、医者間に差別化が生まれ、専門医資格を多く獲得したいわゆる勝ち組だけが生き残る社会になるのかもしれない。ただし、専門医資格を数多く獲得できるのは、経済的、体力的、時間的にゆとりのある医師に限られ、日常臨床に忙殺されている医師が取り残されてしまうのではなかろうか。この点は頭に入れておきたいところである。

日本内視鏡外科学会雑誌の編集業務を担当していると、大学病院は当然として、一般病院からの投稿も数多くある。たとえ大規模施設に勤務しなくても、1 例 1 例を大切に考えて治療する過程を文章にした医師の力作に接すると、外科系医師の逞しさを感じてほっとする。医療環境がどのように変わろうと、元気を出して楽しく仕事をやり遂げる勢いが、われわれ外科系の医師には重要なことである。

内視鏡外科の好きな医師が一人でも多く本会の会員になって、1 本でも多くの論文を本誌に投稿して、多くの技術認定医が誕生し、患者が日本中のどこでも内視鏡外科手術を受けることのできる世の中になってほしいと願うこの頃である。

(小澤壮治)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第 11 巻 第 1 号) 2006 年 2 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1 部定価：会員には毎号送付されます。その他については、1 部定価 2,835 円 (本体 2,700 円 + 税 5%) となります。

2006 年 年ぎめ予約購読料：16,500 円 (税込) (配送料：医学書院負担)

編集・発行：日本内視鏡外科学会 (代表：北島政樹)

〒162-0802 東京都新宿区改代町 26-1-B03 有限責任中間法人学会支援機構内

(☎ 03-5206-6007 Fax 03-5206-6008 担当：佐々木) <http://www.jses.org>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 26-1-B03 Kaidaicho Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0802, Japan

©2006, Printed in Japan

発 売：株医学書院 (代表：金原 優) (本誌担当：蔵田, 中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 ㈱文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意下さい。